走之不可禁、將軍智尊拔刀斬退者、而不能止、因以斬智尊於橋邊、則大友皇子、左右大臣等、僅身免以逃之、　壬子、男依等斬近江將犬養連五十君、及谷直鹽手於粟津市、於是大友皇子走無所入、乃還隱山前、以自縊焉、　乙卯、將軍等向於不破宮、因以捧大友皇子頭、而獻于營前、

〔日本書紀二十九天武〕二年二月癸未、天皇命有司設壇塲、即帝位於飛鳥淨御原宮、

〔神皇正統記天武〕天武天皇は、天智同母の弟なり、皇太子に立て大倭にまし〳〵き、天智は近江にまします、御病ありしに太子を呼申給ひけるを、近江の朝廷の臣のなかに告しらせ申人ありければ、御門の御意のおもむきにやありけん、太子の位をみづからしりぞきて、天智の御子太政大臣大友の皇子〇弘文にゆづりて、芳野の宮に入たまふ、天智かくれ給ひてのち、大友皇子猶あやぶまれけるにや、軍をめして芳野をおそはんとぞはかり給ひける、天皇ひそかに芳野を出、伊勢にこえ、飯高の郡に至りて大神宮を遙に拜して、美濃へかゝりて東國の軍をめす、皇子高市まゐり給ひしを大將軍として、美濃の不破の關をまほらしめ、天皇は尾張の國にぞこえ給ひける、國々みなしたがひ申しかば不破の關の軍にうちかち、すなはち勢多にのぞみて合戰あり、皇子の軍やぶれて、皇子ころされ給ひぬ、大臣以下或は誅にふし、或は遠流せらる、軍にしたがひ申輩しなしなによりて其賞をおこなはる、壬申の年即位、大和の飛鳥淨御原の宮にまします、

〔愚管抄三〕天智の御弟腹もやがて齊明天皇にておはしましける、天武天皇を東宮として御位をひきうつし給ふべかりけるを、天智の御子大友皇子とておはしましけるをば、太政大臣になしておはしましけるが、御心のうるはしからざりけるをや天武御らんじけん、位を辭し給ひて御出家ありて、吉野山に籠り居させ給ければ、天智大に歎きながら崩御終りて後、大友皇子いくさを起して、吉野山を攻奉らんとする時、大友皇子の妃にて、やがて天武天皇の御娘のおはしければ、御てゝのやがて殺され給ん事を悲しみや思召けん、かゝる事出來たる由を、忍やかに吉野山